

『近畿大学教育論叢』第31巻第1号の刊行に寄せて

近畿大学における教職教育のいっそうの充実を期し、平成元（1989）年4月、近畿大学教職教育部が設置された。爾来30年、開設とともに創刊された『近畿大学教育論叢』（発刊当初は『教育論叢』）も齢を重ねた。本号はその第31巻第1号にあたり、教職教育部開設30周年記念号を兼ねている。

この記念号では、専任教員18名全員が論考を投稿することを第一義とした。これと同様のことは開設10周年を記念した第11巻第1号（1999年9月刊）でも行われ、本号が2度目である。ただし、当時の専任教員は14名であり、その数の増加によっても、教職教育部の堅実な歩みの一端をうかがい知ることができる。

本号では専任教員による通常の論考に加え、2名の歴代部長と、開設当初を知るOB教員、学生サークル「教職ナビ」の立ち上げにかかわったOB教員にもご寄稿いただいた。またこのほか、10周年記念号にはなかった教職教育部の歩みを知る略年表なども付け、紀要としての学術的価値だけでなく、全体として教職教育部の歴史もふりかえられるような内容とした。

『近畿大学教育論叢』は、創刊以来、原則年2回の刊行をつづけてきた。学内兼任教員や非常勤講師のほか、他学部の専任教員や、学外の研究者からの投稿も歓迎したが、たかだか十数名の専任教員が年2回の刊行を維持してきた努力には並々ならぬものがある。

本学の教職課程を運営する教職教育部は、全国の教職課程でもユニークな形式をとる準学部的組織であり、所属教員の専攻も幅が広い。そのため、これまで本紀要では日頃の教育実践や課程運営にかかわる様々な論考のほか、哲学、教育学、心理学、各教科教育学、関係諸科学、教育行政学、学校運営など、多岐にわたる論考を世に問うてきた。本号においても、各掲載論考が教職課程を運営する全国の大学の、教育実践と研究に資するものになったと自負している。関係各位のご批評を賜れば幸いである。

近畿大学は6年後の2025（令和7）年、創立100周年を迎える。

本号が近畿大学教職教育部30年の歩みをふりかえるとともに、創立100周年の一つの記録となることも願い、巻頭の言葉としたい。

平成31年4月1日 新元号が発表された佳き日に

教職教育部長 戸井田克己